

苫小牧市総合教育会議議事録

会 議 名	令和7年度 第1回 苫小牧市総合教育会議
日 時	令和8年2月6日 自 13時00分 至 14時05分
場 所	市役所本庁舎5階第2応接室
出 席 者	市 長 金 澤 俊 教 育 長 山 本 俊 介 教 育 委 員 佐 藤 郁 子 教 育 委 員 齋 藤 智 子 教 育 委 員 岡 田 秀 樹 教 育 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 者	
事 務 局	教 育 部 長 園 田 透 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 参 事 東 峰 秀 樹 教 育 部 参 事 荒 関 基 高 総 合 政 策 部 政 策 推 進 室 長 茶 谷 英 史 学 校 教 育 課 長 三 橋 大 輔 総 務 企 画 課 長 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 長 補 佐 猿 田 秀 一 総 合 政 策 部 政 策 推 進 課 長 大 宮 良 総 務 企 画 課 主 査 岡 崎 一 樹 総 務 企 画 課 主 任 主 事 飯 塚 菜 摘
協 議 事 項	(1) 苫小牧市立学校再編ビジョン（素案）について (2) 苫小牧市立学校における働き方改革加速化計画（案）について

会議の経過概要	別紙のとおり
1 開会の宣言	・・・13時00分
(金澤市長) それでは、定刻になりましたので、令和7年度 第1回苫小牧市総合教育会議を開催いたします。	
本日の議題は2件ございます。1件は今後の学校の統廃合について具体的な方向性を示すもの、もう1件は全国的課題となっている教職員の働き方改革に関するものであり、いずれも重要な案件であります。	
しっかりと協議いただき、次年度の準備を進めていきたいと思っております。	
2 議題	
(1) 苫小牧市立学校再編ビジョン(素案)について	
(金澤市長) それでは、議題(1)「苫小牧市立学校再編ビジョン(素案)について」事務局から説明をお願いします。	
(総務企画課長) 議題(1)「苫小牧市立学校再編ビジョン(素案)」について説明いたします。	
教育委員会では、少子化に伴う児童生徒の減少を受け、教育環境の維持・向上のため、これまでの規模適正化の方針をもとに、学校統廃合や適正配置に向けて協議し、市長部局とも共有してまいりましたが、このたび、今後の学校の中・長期的な全体像を示す「苫小牧市立学校再編ビジョン」として、その素案が完成しましたことから、ご説明いたします。	
資料は、本編および概要版を配付しておりますが、本編を用いて、端的に説明いたします。4ページをご覧ください。このビジョンは大きく4章で構成され、4ページから5ページは、第1章として、このビジョン策定に至る背景と位置づけ、計画期間を説明しております。背景と位置づけは冒頭で触れておりますので省略しますが、5	

ページ下段の計画の期間につきましては、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化に伴う更新時期などを踏まえ、令和9年度から18年度までの10年間とし、中間年度で見直すこととしております。

6ページをご覧ください。ここから、第2章として、学校・児童生徒数の現状と推計を掲載しております。児童生徒数のピークであった昭和60年からおよそ半減している一方で、学校数は、当時よりも増加し現在に至っている状況です。7ページでは、今後の児童生徒数の推計を、8ページでは規模別の学校数の今後の見とおしを掲載し、9ページは学校施設の状況となります。10ページ、11ページは市民意識の分析として、未就学児の保護者と在校生の保護者へのアンケート結果を抜粋して掲載しております。統廃合や小規模校の解消について一定の理解はあるものの、在校生の保護者においては、現在の在校生に影響が及ぶことは避けたい旨の回答が多くありました。

12ページをご覧ください。第3章として、学校再編の基本的な考え方を掲載しております。1点目が、小規模校を再編し、クラス替えが可能かつ、より充実した集団活動が可能な環境を整備すること。2点目が、全市的な配置バランスを見極めながら隣接校と統合し、小中連携や地域コミュニティの要素も考慮すること。13ページとなりますが、3点目は、スクールバスの活用などを検討し、通学の安全を確保すること。以上3点を基本的な考え方としております。

また、これまでの教育委員会会議や庁内からの意見も多くありましたが、閉校後の跡地利用の考え方について「校舎の老朽化など施設の状態や各地域の状況に応じた対応を、市と連携して検討すること」としております。

14ページをご覧ください。第4章として、ビジョンの全体像とブロック別方針を掲載しております。計画終了となる令和18年度には、小学校が現在の22校から14校に、中学校が現在の14校から9校に、義務教育学校が1校から2校となり、全体で現在の37校から12校減って25校に再編予定です。

15ページは、統廃合の全体スケジュールを示しており、現在の在校生への影響や統合先の学校の教室数、地域との合意形成も考慮し、令和14年度から17年度に統

<p>廃合を集中的に実施することとします。実施時期については、スケジュールのとおりですが、市の財政事情や地域との合意形成も必要なことから変更となる可能性もございます。</p>
<p>次年度は各地域での説明会を開催し、パブリックコメントを経て、このビジョンを成案化したいと考えております。また、実際の統合にあたっては、5年前から地域協議などを始めていき、個別具体的な地域プランの策定や統合準備委員会を設置していきます。</p>
<p>16ページからは、地域ごとの現状と方針について掲載しております。改めてブロックごとに、端的に説明していきます。</p>
<p>市の西部、Aブロックについては、凌雲中学校が小規模校の状態が続き、校舎も改築が必要な状況です。また、澄川小学校の進学先が緑陵中と啓明中に分かれるという課題もございます。17ページ、今後の方針として、凌雲中、啓明中を段階的に緑陵中に統合とします。また、澄川小学校校区全域を緑陵中校区とし、泉野小学校の進学先を明倫中学校へ変更します。なお、泉野小学校については小規模校となりますが、学校配置や中学校の校区を考慮し、現状維持とします。</p>
<p>次に、18ページ、中心部西部のBブロックについては、小学校は北光小を除き、小規模校で推移していき、校舎も老朽化しております。19ページ、今後の方針として、日新小、豊川小を北星小に統合し、合わせて校区も再編し、距離が遠い地域へのスクールバス導入を検討します。中学校は啓北中学校がやがて小規模校となる見込みですが、クラス替え可能な規模が維持できることから現状維持とします。</p>
<p>次に、20ページ、中心部北側のCブロックについては、清水小、明野小の小規模化や、清水小、美園小の改築が必要な状況です。中学校でも開成中が小規模で改築も必要な時期となっています。21ページ、今後の方針として、清水小と美園小を緑小に統合、合わせて校区も再編し、この地域も距離が遠い地域へのスクールバス導入を検討します。中学校では、開成中、明野中を段階的に和光中に統合とします。</p>
<p>次に、22ページ、東部地区のDブロックについては、小学校は適正規模で当面推</p>

移することから現状維持とし、中学校も、沼ノ端中学校は小規模で推移しますが、クラス替えができる規模であるほか、隣接校との統合は通学の安全に課題があることから現状維持とします。

次に、24ページ、中心部を含めた鉄南地区のEブロックです。小学校は5校とも、既に小規模となっているほか、中学校への進学先が分かれるといった課題があります。25ページ、今後の方針として、糸井小、若草小、西小3校を閉校とし、東小と大成小に集約します。合わせて校区も中学校の校区と一致させ、距離が遠い地域についてはスクールバスを導入します。中学校は小規模で推移しますが、校区や全市的な学校配置バランスを考慮して現状維持とします。

25ページ、Zブロックですが、このビジョンにおいては地域性から再編の除外としており、地域や少人数の特性を生かした学校経営を継続させます。

27ページ以降は資料編となり、先程ご説明した保護者へのアンケート結果のほか、学校規模別のメリット・デメリット、児童生徒数の推計方法について、掲載しておりますが、説明については割愛いたします。

以上、議題（1）「苫小牧市立学校再編ビジョン（素案）」についての説明とさせていただきます。

（金澤市長） はい、ありがとうございました。それではこの件に関しまして、ご意見・ご質問をお伺いしていきたいと思っておりますけれども、せっかくなので各委員一人一人にご発言いただきたいと思っております。佐藤委員からよろしいですか。

（佐藤委員） 各ブロックの規模ですとか学校数の差もあると思っておりますが、地域を超えた通学というのも考えていかなければいけないと思っています。非常に大きなところで、Dブロックの地区に通っている中学生の進路先としては苫小牧市内となっておりますけれども、札幌の方へも行けるというようなお話もあります。市内が東西に長いので、ブロックごとに分けて、その地域ごとの教育をするということはとてもいいことだと思うのですが、やはり主体は児童・生徒ですので、自分の将来を考えたときに、越境できるかどうかというのを一つ考えて準備していかなければならないので

はないかなと思っております。保護者たちの考え方が東と西での差というのは、随分あるように思いますので、同じ苫小牧市の小・中学生としては、同じような情報を出して同じような条件で勉強し、いろいろなことを体験していくようにしていくとよろしいのではないかなと思っております。以上です。

(金澤市長) ありがとうございます。順に聞いていきます。齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) 市民アンケートの中でも、小学校に求めることは「コミュニケーション能力や協調性を育成してほしい」ということが見受けられました。クラス替えや、多様な友達と出会ってほしいという願いもこのアンケートから見受けられます。私自身も、大人が子供を育てるという責任はありますが、子供は子供同士お互い影響を与えながら、お友達の良いところや悪いところ、あと、悲しいことや楽しいことを経験しながら共に育ち合う形が理想かなと思っております。

小規模校は小規模校ならではの良さはありますが、やはり子供たちが切磋琢磨して育ち合うということで目を向けたときに、ちょっと厳しいかなというところもありますし、子供の数が減っている中では致し方ないことだと思いますので、統廃合を進めるべきと私自身は思っています。その中でいろいろと問題点も浮かび上がってくるかと思えます。

一つお伺いしたいのですが、スクールバスが出るということで今ご説明を受けて、そのエリアのお話を聞いたのですが、このスクールバスに該当するような子供っているのが、そのときの年によって子供たちの数はばらつきがあると思いますが、どのぐらいの数を想定されていますか。

(教育部齋藤次長) 今のところ推計値で、その時に何人ぐらいになっているのかというのはなかなか難しいのですが、例えば、糸井ですとか清水、そういった小学校をなくすところは、スクールバスの運行を前提としています。それぞれの地域あわせて、大体10台から13台ぐらいのバスが必要になるような見込みです。人数までは今お示しできませんけれども、できるだけ基準の2km以上になるような範囲にはスクールバスを考えておりますので、そういった対応をしていきたいというところでご

ざいます。

(齋藤委員) ちょっと人数は今わかりにくいと思いますが、大体10台から13台ぐらいのバスが出るということでイメージがつかしました。今までそういうことをしてこなかったのも、そのことに対する不安ですとか、例えば学校の帰りに先生に残って話があるようなときにバスが出てしまうから、放課後の活動に制約が出てしまうとか。あと地域の方ですよ。やっぱり今、地域で子供を育てようという動きの中で、その地域から学校がなくなってしまうと、学校に対して地域が広がりますので、地域との関係がちょっと希薄になっていくのではないかなという心配に対する対処が必要かなと思います。

それとももちろん、今、お子さんのいるご家庭やお子さん自身に対する不安のない説明というのにも必要だと思いますが、地域の方に対する説明と、意外と「母校」という言葉があるとおり、卒業した方たちの思い出というのはすごいと思います。その思いを汲み取る機会というのがどうしても手薄になってしまうと思うので、苫小牧市として学校に対する思いを受けとめる発信ですとか、そういうものがあれば非常に良いと思います。

あとは先日の教育委員会会議でも出ましたけれども、避難所の話、選挙会場の話ですとか。これはもちろん進めていかなくてはいけないと思いますが、それに対する問題もたくさん出てくるかと思いますが、そこは柔軟に皆さんの知恵をお借りしながら対処していただきたいと思います。以上でございます。

(金澤市長) ありがとうございます。続きまして岡田委員、よろしくお願ひします。

(岡田委員) 全国的には児童生徒の減少傾向、苫小牧市でも同じように推移しているということで、今後も児童生徒の減少が予想されるというところかと思いますが。私も小学校・中学校の頃を思い出しますと、クラスが変わるということは新しい友人ができてまた新しい気持ちで教室の中で勉強できるということで、新鮮な気持ちになれるというところが思い出されるのですが、1学年1クラスの小規模校ではクラス替えが行えないということで、先程もお話がありましたが、いろいろな多様な考えに友達

同士で触れる機会が少なくなるのかなと思います。

あとは文化祭だとか合唱だとか体育祭ですとか、そういったことは小規模校だとかなかなか行いにくかったりしますので、ある程度一定の規模の学校がいいかなと思います。保護者の意見もアンケートを見ますと、1学年に1学級の小規模校では、学級数への不満がちょっと多いことが見受けられますので、それを考えなければならぬと思います。最近は小学校と中学校の連携ということもありますので、進学する際の小中学校の連携というところを考えて、統合について考えていかなければならないと思います。学校というのはいろいろな面でのコミュニティの中心というところもあります。あとは防災の避難場所の考慮というところも必要かと思います。

また、植苗小中学校と勇払、樽前のZブロック、小規模の学校では人間関係が深く知り合えるというそういった良い面もありますので、Zブロックの保護者の方の考えもいろいろあると思いますが、Zブロックとほかのブロックの良い面をお互いに弾力的にしていくというところも考えられるのかなと思います。以上です。

(金澤市長) ありがとうございます。続きまして、高橋委員お願いします。

(高橋委員) 保護者のアンケート等も踏まえて、まずこの再編に関しましては、児童生徒も減り続けるということで仕方がないというふうに思っています。一つ懸念するのは、スクールバスの話が出ましたけれども、小学校1年生の学校に通う距離が長くなるということについては検討する必要があるのかなと思っています。スクールバスの運営に関しましても、最近は大気汚染も含めて道が本当に歩きにくいと伺っています。バスも含めた中で親御さんが送っていいというふうにするのかとか、いろいろな細かい部分での検討というのは必要になってくるかと思います。私からは以上です。

(山本教育長) 今、各委員さんからご意見いただいたところですがけれども、本市においても、やはり少子高齢化・人口減少時代を迎えまして、小中学校の児童生徒数の減少の一途という現状があります。実際に現在1学年1クラスでクラス替えができない学校も多数出てきたということで、子供たちにとっては、いろいろな考え方、そして価値観を持つ多様な他者と関わっていくことが必要だと考えています。そういった

他者と関わる中で試行錯誤しながら主体的・対話的に深く悩みながら成長していくということを考えると、やはりクラス替えができない学校環境というのはベストとは言えないのではないかと考えています。クラス替えができないと、友人関係が小学校では6年間硬直化するということになりますので、子供たちの成長段階に必要な経験というのがやはり制限されてしまうのではないかというふうに考えています。また、実際に不登校気味であった子がクラス替えを契機に登校できるようになったというようなお話も校長先生からは聞いているところです。やはり子供にとってはそういった関係の変化も必要なのかなというふうに思います。

先程、委員の皆さんからもお話がありましたが、やっぱり学校というのはその地域にとっての中心的存在として考えられてきたところがあると思いますし、例えば地域の福祉政策においても、範囲を決めるときに中学校区の範囲を基準とするという考え方があります。そういった意味では、地域コミュニティのあり方の基準の中心として学校というものが考えられる現状があります。教育分野においても、コミュニティスクールは学校の距離から中学校区で設定しているわけですが、学校運営というのはやはりその学校の教職員だけではなく、地域の保護者、住民などの関係者の協力なくしては成り立たないものであると思いますし、人口減少や高齢化という地域ごとの住環境の変化もありまして、学校を中心とした地域コミュニティの再編も、おそらくこの統廃合に伴ってくるのかなというふうに思います。

先程、委員さんもおっしゃっていましたが、やっぱり学校が数少なくなると地域というのは広がりを持ちますので、地域コミュニティでもそれに伴って拡大した再編というのが必要になってくるというふうに思います。学校数が減ることによりまして、必然的に通学は遠くなるという地域も出てくるでしょうし、災害時の避難所の確保、跡地利用をどうするのかといった課題もありますけれども、まずは地域の方々と丁寧に協議しながら、そして理解を得ながら、統廃合を進めていくことが大事ではないかと考えています。このビジョンにつきましては市教委としましてもあくまでも素案でありますので、これでもう決定して中身は動かないというものではないというふうに

思っています。地域との協議で今後内容の変更もあり得るというふうに考えていますし、緻密に丁寧に地域の方々に説明し、協議していくことが一番大事なのではないかと考えています。私からは以上です。

(金澤市長) 先程、佐藤委員からありました。また岡田委員からも若干それと似たようなご発言があったのですが、今回の素案の中でブロックごとの検討はありますけれども、越境ですとか、他のブロックとの兼ね合いや柔軟性を持ってやっていくことについて、何か現段階でお考えのことがあればお伺いしたいのですが。

(総務企画課長) 統廃合の学校の選定にあたっては、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化といった部分も着目して検討していますが、やはり全市的な配置バランスといいですか、先程、皆様から意見をいただきましたけれども、学校は地域のコミュニティの核という部分もありますので、できるだけ近い地域に学校を残しつつ、全市的な視点から配置を考えるというところで、今回学校の整理として、場合によっては進学先が5つに分けたブロックから他のブロックになる地区もございますが、そういった地域における学校という視点、全市的な配置のバランスという視点から、このような案として提示させていただいております。

(金澤市長) ありがとうございます。今の説明についていかがですか。

(佐藤委員) 付け加えさせていただきたいのですが、近い将来、他のブロックがみんな小規模校になり、コミュニティが運営しづらくなっていくというようなことも踏まえて、規模的に大きな学校で勉強したいなとかそういう希望が出たときに、もちろん受け入れる条件とか通うところの難しさもあろうかと思うのですが、全くだめだということではなくて、認めるのが難しかったら、学校間での交流ですとか、教育内容は同じですが取り組み方の違いとか、そういうようなことが刺激になればいいかなというふうに思います。

説明を少なくしてしまっていていきなり「越境」という言葉を使ったのですけれど、様々なところで勉強ができるような機会になればいいかなと。また、そういうことも可能だということも考えられればいいかなということなんです。

<p>(教育部斎藤次長) 佐藤委員ありがとうございます。やはり規模を適正に保つということで、市内東西あっても、同じ教育環境を提供してあげたいというのがまず市教委の思いです。ですので、今回の再編によって、ウトナイ小ですとか大きい学校と西側の小さい学校というのを適正な規模にしていきたいと思っています。その上で、どうしても小規模校を望む方には、樽前小を残しているの、特認校の特色を理解してもらいながら選ぶことができるようにしていますし、そういった中で、この学校が特別いいというようなことなるべくないように、バランスよく、配置と規模を整えていきたいということでご理解いただければと思います。</p>
<p>(佐藤委員) わかりました。ありがとうございます。</p>
<p>(金澤市長) 今、課長の方からも若干説明がありましたが、改めて今回の素案の中で、廃校にする学校と存続させる学校はおそらく跡地利用もそうですし、これからいろいろ議論が進んでいくと思います。避難所としての位置関係だとか、いろいろと考えたうえでの提案だったと思いますが、改めてそういった学校をどうやって決めたかというのをご説明いただければと思います。</p>
<p>(総務企画課長) まず学校規模の適正化というところで、この再編を進めることとなりますけれども、児童生徒数もやはり減少して推移しているの、将来、規模・教育環境が保障できるかっていうところに着目して、クラス替えが可能な学校規模となるようにということで、学校隣接校との統合を決めております。</p>
<p>あとは通学区域、学校区でいうと、先程の説明でも含めておりますけれども、小中連携という部分でも、今は小学校の進学先、中学校が複数の学校に分かれるということも整理するにあたって、中学校校区も含めて学校の配置ということで、学校を残すか残さないかという部分を整理しております。</p>
<p>あとは校舎の老朽化状況を含めて、今後改築が必要になってくるということなども踏まえて、校舎の改築のスケジュール、そういう今後の見通しも含めて残す学校を考慮して、学校を選定しております。あと地域の配置ですね。地区ごとに見て学校が偏らないように配置のバランスをとって、選定したところでございます。</p>

<p>(金澤市長) ありがとうございます。それと先程、高橋委員の方からもありました</p>
<p>スクールバスの導入というのが、市内ではまだやっていないものだと思いますが、幼稚園に関わっている齋藤委員もいらっしゃいますので、先程あったスクールバスを利用できなかった子の対応といたしますか、そういうものも考えていかなければいけない</p>
<p>と思います。乗り遅れた子の対応ですとか、そのあたり何か想定されているものがありますか。</p>
<p>(総務企画課長) 苫小牧市としては、植苗地区で少人数ではありますけれども、スクールバスは今も登下校に委託して運用しているところです。イレギュラーな部分については保護者の方も心配されると思いますが、まずは学校とともに低学年の子も含めて、スクールバスでの登下校を安全に適切にできるかという協議をしていきたいと考えております。あとはバスの委託なども考えながら、バスの運行事業者とも課題を共有して協議しつつ、他市の事例も含めて、どのようにバスを安全に運行して登下校</p>
<p>につなげるか、そういった部分をしっかり整理してまいりたいと考えております。こちらのビジョンを次年度説明したあと、実際に統廃合する5年ほど前から、そういった課題も洗い出して地域・学校等へ協議しながら、しっかり対処してまいりたいと考えております。</p>
<p>(金澤市長) ありがとうございます。他に委員の皆さまから何かございますか。</p>
<p>先程、教育長が対住民の皆さん、地域に入っていったの今後の進め方について言及されておりましたけれども、私も大事なかなと思うのは、これはあくまで素案で決定ではないというスタンスで、住民・地域にあたっていった、柔軟に意見を聞きながら進めるということが極めて大事なのかなと思っております。来年度以降の地域へのそういった説明、協議の進め方について、今の事務局としてのイメージというかお考えがあればお示しいただきたいです。</p>
<p>(総務企画課長) まずこの再編ビジョンが決定しましたら次年度早い時期に、特に統廃合が関係する学校においては、日頃から学校運営に参画して、学校・地域・保護者から構成される学校運営協議会に説明させていただくとともに、学校や地域に対し</p>

て、広く住民説明会で市教委の考えをしっかりと伝えたいと考えております。その際も、一方的に説明して決定というふうに進めるのではなく、素案ということで保護者ですとか地域の方々からの意見や質問に丁寧に対応して、場合によっては持ち帰ってその修正案を示すとか、もう少し丁寧に説明するとか、そういう説明の場を設けていきたいと考えております。

(金澤市長) わかりました。指導室の先生たちもいらっしゃいますが、教員の立場といたしますか、目線から言った場合の統廃合を進めていくということについては、現状を踏まえて何かありますか。

(教育部東峰参事) 特に小学校におきましては、人材育成の部分も含めて、やはり学年を1人の先生で見るというよりは複数の学級担任がいるというところで、教科指導や生徒指導の面においても知恵を出し合ってより質の高い指導ができるのかなというふうに考えられます。さらに特に小学校の高学年では、学年内の教科担任制を導入しているところも多くございますので、専門的な指導を子供に提供できる、あるいは教科を専門的に指導できるというところでは、全部の教科の指導の準備をしなくてもよいというところで、働き方改革にもつながるものと考えております。子供にとってもやはり専門的に学ぶ機会が増え、それから担任だけでなくいろいろな先生と関係性を築くことで、先生に相談しやすいというような安心感もさらに高まっていくのかなとも思われますし、大きなメリットを感じている教員も多いのではないかと考えております。以上でございます。

(金澤市長) ありがとうございます。今お話にありましたように、まずは子供たちの環境をより良くしていくという視点を持つのはさることながら、教員の皆さんにとっても良い教育をする環境づくりという側面もあるということだと思います。

昨今、暑さという意味でも、環境改善を求められることが私も「あなたの街でミーティング」で続きました。本当によくいただく話ですので、日頃から教育長へご相談させていただいておりますけれども、こういったいわゆる少子化が進んで、教育費としてかけているコストですね。例えば1人当たりのお子さんで計算すると、前と比較

して非常に高くなっていると。これをある程度集約して、良い環境を整えながらさらに暑さ対策を進めるような、そういった効率の良い教育費の使い方みたいなものがもっと進められるのであれば、より良いのかなというふうに私としても思います。その辺り委員の皆さんどうでしょうかね。クーラーの設置って本当に求められているのですが、全部やることはなかなかできないものですから今、市長部局でもいろいろ検討しているのですが、何かその点についてもご意見ありましたらお伺いします。

(高橋委員) 保健室には普通にあるという話も聞いておりますけれども、最近本当に暑さが尋常ではないということが本当にありまして、子供たちへいろいろなケアが必要な状況がかなりあると思います。苫小牧市に関しましても、クーラーの配置率がかなり上がっていて、通常は家にあるのに学校にないという状態自体が、やっぱり子供にとってはかなり苦痛だという話もお聞きしていますので、なるべく早い段階で整備を進めていただきたいと思います。

(金澤市長) はい、ありがとうございます。それでは委員の皆様から特になければ、この件について終わりたいと思いますが、今伺いましたら、現状を踏まえすと、子供たちの教育環境の向上のためには、学校の統廃合をこれから進めていくということが必要だといったご認識でよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(金澤市長) それでは、教育委員会議において決定した後、来年度地域に説明をしていくといったことでよろしいですね。事務局の皆様よろしくお願ひいたします。それではこの件については終わりたいと思います。

(2) 苫小牧市立学校における働き方改革加速化計画(案)について

(金澤市長) それでは、議題(2)「苫小牧市立学校における働き方改革加速化計

画（案）について」事務局から説明をお願いします。
（学校教育課長） 議題（２）「苫小牧市立学校における働き方改革加速化計画
（案）」についてご説明いたします。
まず、策定の経過についてでございますが、「公立の義務教育諸学校等の教育職員
の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律案」いわゆる「給特法の改正」
が令和７年６月に国会で議決され、本年４月から施行となります。この度の給特法の
改正では、主に労働環境の改善、業務負担の軽減、そして教員の健康維持に重点を置
いています。この改正により、業務量管理と健康確保のための措置が強化され、教員
がより働きやすい環境を整備することが求められ、教育委員会において新たな計画の
策定が義務付けられました。ついては本市でも働き方改革をより促進するため本計画
を策定するものです。
資料の概要版をご覧ください。本日は概要版に沿ってご説明いたしますが、本編も
併せてご覧いただけたらと思います。
まず初めに、計画の目的ですが「教員の業務量を適切に管理し、長時間勤務の抑制
と働き方の質的転換を図るとともに、健康確保のための実効性ある措置を体系的に推
進すること」を目的とします。計画期間につきましては、国が目指す水準の目標年度
が令和１１年度までとしていることもあり「令和８年度から令和１１年度の４年間」
としています。計画の位置付けですが、改正給特法第８条に基づき義務付けられた計
画を策定するものでございますが、「苫小牧市学校教育推進計画」を踏まえ「苫小牧
市立学校における働き方改革取り組み方針」を踏襲する形で策定するものです。
次に、本市の現状ですが、学校教育推進計画の中で「時間外在校時間が１か月４５
時間以内となる教育職員の割合」を指標としており、令和６年度は８６．２％と
なっています。また、毎年実施していますストレスチェックでは実施率が７４％、そ
のうち高ストレス者の割合が１１％となっています。目標ですが、国では時間外在校
等時間が月４５時間以下、年３６０時間以内の割合を１００％にする目標を設定して
おり、本市としてもこの二つを目標に設定するとともに、ストレスチェックの実施率

向上、高ストレス者の減少を目標に設定することで、長時間勤務の抑制と健康確保に努めたいと考えています。

次に、具体的な「業務量管理・健康確保措置の取り組み内容」につきましては、大きく3つ設定しています。一つ目は「業務3分類を踏まえた業務の見直し」です。イが「学校以外が担うべき業務」として3項目、ロが「教員以外が積極的に参画すべき業務」として6項目、ハが「教員の業務だが負担軽減を促進すべき業務」として3項目を設定し、業務分担を明確にした中で取組みを推進します。二つ目は「学校における措置の推進」として3項目設定し、学校現場における取組みを記載しています。三つ目は「教員の健康及び福祉の確保に関する取組」として4項目設定し記載しています。

最後に、「役割・フォローアップ」として、市教委・学校の役割を明確にし、継続的かつ効果的に計画を推進してまいりたいと考えています。本計画は、教員の健康を守り、業務の効率化を図るために非常に重要です。これらの取組みを通じて、教員が安全かつ快適に働ける環境を作り、「働きやすさ」と「働きがい」の両立を目指してまいります。以上、簡単でございますが「苫小牧市立学校における働き方改革加速化計画（案）」の説明を終わらせていただきます。

（金澤市長） ありがとうございます。それではこの件に関しまして、ご意見を伺いたいと思います。佐藤委員からよろしいでしょうか。

（佐藤委員） 先生方はいろいろお忙しいので、時間が決められて45時間以内になるとか厳しいと大変だと思いますが、それでもまずは先生方の健康確保については大事なところではないかなと思います。ストレスチェックをもう少し先生方へよく周知して受けやすいように、ちゃんと受けた後こんなふうになるというのをきちんと周知したほうが受ける方も受けやすいかと思っております。

新聞で見たことですが、学内の業務の中で教頭先生が担当されたり、学年主任が担当されたりする、いわゆる一般教員の方から上がってきて校長先生に行くというルートがあるかと思いますが、そのところを取ってしまっ、校長と担当教員が直接話

し合って決めるとか、そういうような役割の変更によって時間が少なくなったり、それから時差出勤で先生方が1時間早く出勤されるとか早めに帰るとか、そういうことも進めているところがあります。年齢からいうと、経験豊富な先生は責任を感じてあまりその時差を取り入れることはないようですが、若い先生はそれを十分に使って自分の子供の面倒や親御さんの面倒を見たりするということがありました。

本市でもすぐ導入するというのは難しいかもしれませんが、時間の使い方を少し自由にできるようになれば考えられるのではないかなと思いました。先生方の健康をまず確保するのが大切だと思います。以上です。

(金澤市長) ありがとうございます。齋藤委員お願いします。

(齋藤委員) こちらに「先生の笑顔が子どもを育てる」と書いてあって、本当にそのとおりだなと思います。やっぱり先生が健康でなくては、子供たちは何も先生たちから受けることができないと思います。

前に伺ったことがありまして、先生方の働き方改革とかにおいて、大方の先生っていうのは子供たちのためにはすごく頑張る。時間とかオーバーしても、給料とかも考えずにやっぱり子供たちの育ちのため、少しでもより良い成長につながればということに残っていて、教材準備ですとか一生懸命頑張る傾向にあるのが先生ですっていうふうに言われたことがあって、そういうものなのかと私は胸を打たれました。

本当にありがたいのですが、ここに書いてあるとおり「先生の笑顔が子どもを育てる」ということで、まず先生が笑顔でなくてはいけませんので、書いてあったとおりこのストレスチェックも100%にして、ストレスなんか受けていないと思っている方もチェックを受けると意外と自分の数値が高いなとか、自分を客観的に見つめることとなりますので、ぜひこれを進めていただきたいなと思います。

あと、業務ですね。今ご説明があったとおり、学校がやらなくてもいい業務ですとか、学校がやるべきですが先生がやらなくてもいい業務っていうのは、やっぱり積極的に先生方に流れていかないような体制作りを取っていただきたいなと思います。以上です。

(金澤市長) ありがとうございます。岡田委員お願いします。
(岡田委員) 教育でいうと先生と生徒との互いの響き合い、互いに刺激し合うとい うところがあると思いますので、先生が笑顔にならなくなってしまえば、それは生徒 へ影響してくるものだと思います。それがひいては児童・生徒の学習意欲や、それか ら学力の向上も影響してくるのではないかと思いますので、そういった先生の働きや すい魅力のある職場を作っていくというのは、教育にとって非常に大切なことだとい うふうに思います。
その中で高ストレスの方が11%いるというのは、やはり10人に1人というのは、 その辺は深刻に考えなければならないと思います。目標が6%ということですがけれど も、そういった高ストレスの先生方の不満を少しでも和らげていく必要があると思 います。学校の教育にとって、今まであまりその辺は考えられていなかったところがあ るのではないかと思いますので、これから大切になってくるのかなと思います。
トラブルになったときのことも書かれてありますけれども、サポート体制、先生の 相談窓口の整備というようなことが必要かと思います。そういう意味で、学校の先生 方ではなくても、地域だとかあるいは学校の先生のOBだとか、いろいろな人材を活 用して、一緒に学校をつくっていくというか、生徒を地域で育てる。地域もそれに連 携していくという意味で、先生方の負担の軽減につなげるような方々、サポートをし ていく体制というのを整備していかなければならないのかなというふうに思います。
そのためにはいろいろ予算だとか、スクールカウンセラー、スクールソーシャル ワーカー、特別支援員の方々の配置というのも、必要になっていくものと思いますの で、今後そのような検討をしていかなければならないのかなと思います。以上です。
(金澤市長) ありがとうございます。高橋委員お願いします。
(高橋委員) 対象となる方というのは、校長職や教頭職も含まれるということ でしよ。要はここで見えている範囲の中のストレスのかかっている方が、実際にどの ようなストレスを抱えているかというのがこの統計だけではわかりません。大事なこ とは先程もお話がありましたが、子供たちに対して適切な環境を含めた健康管理を

<p>しっかりしていただいて、教育の質と量を高めていただくことです。</p>
<p>ただ、もう一つだけ言うと、役職者のストレスがかかる場所や時間自体の使い方やボリューム感自体の考察を、これは一律には言えませんが、やっぱりそういうことをちゃんと適正に確認をしたうえで、必要に応じたストレスの解消にあたって様々な効率化を図るとか、健康維持管理のためにソーシャルワーカーと会うとか、いろいろな形をぜひやっていただきたいと思います。</p>
<p>また、もう一つは保護者への理解というのは大変私は必要なことだというふうに思っていて、もちろん昨今でいうところの我々の業務効率化ですとか時間数自体を減らさないといけないのが現状としてはあるなかで、一方で保護者が学校に対して期待するところが、時間が少ないことによって削られてしまうのではないかという懸念が考えられるかと思っています。</p>
<p>この概要版の右下にフォローアップと載っていて、HPによる公表、市議会報告など市民周知となっていますけれども、実際これが本当に図られるのかというのはやっぱり難しいところもあるのかなというふうに思いますので、必要に応じた形のその保護者に対しての適切な報告というのも今後は必要になってくるのかなと思います。私からは以上でございます。</p>
<p>(金澤市長) ありがとうございます。教育長お願いします。</p>
<p>(山本教育長) 教職員の長時間労働というものが、最近は報道などもありましたので、非常にブラックな職業だというイメージができてしまったような感はあります。本来やはり教職員というのは学びの専門職ということで、子供たちと関わりながらその成長を支援していく、非常にやりがいのある仕事というふうに思っています。</p>
<p>今回、給特法の改正に伴ってこの計画の目標達成に向けて今後、取り組んでいくことにはなるのですが、やはりどうしてもこういった働き方改革という、学校の場合は時間外勤務手当というのがありませんので、時間外在校時間という言い方になっていきますけれども、単純にこの時間を減らせばよいということではないと思います。ここにこだわってしまうと、どうしても反作用として出てくるのは仕事の持ち帰りです</p>

ね。学校に長くいられないと自宅に持って帰って仕事をしようと、こういったことに
しかならないという面も出てくるかと思えます。そういった意味では、時短というの
はもちろん手段の一つではあるのですけれども、計画の「はじめに」というところに
書いてあるとおり、やっぱり教職員がいかに働きやすさ、働きがいを感じることで
きるかというところが大事だと思っています。

一部、公務のDX化ですとか予算を必要とするというような取組もありますし、逆
に業務内容とか仕事のプロセスの見直しの効率化ということで、それほど予算を必要
としないような取組もあると思えます。当然これは、市教委から押し付けるものでは
ありませんので、現場の先生方が自らこの仕事をこういうふうに効率化できないかと
か、そういったことも市教委と一緒に考えていただく必要があるかというふうに思い
ます。場合によっては、ある程度スケールメリットが出れば思い切って民間委託する
とか、例えば全学校に共通している業務があれば、スケールメリットがこれくらい出
れば引き受けられますよという業者さんが出てくるかもしれませんので、そういった
視点も必要かなというふうに思っています。

いずれにしても、最近、教員の採用数もなかなか思うようにいかない状況が続いて
いますので、人を増やせば楽になるという時代ではなくなってきたかというふう
に思います。ですので、教員の働き方を変えていくために本当に何が必要で何が効果
的なのかということも継続して検討して取組をブラッシュアップしていくことが大事
かなと思います。

この計画は来年度からスタートしますが、また、この総合教育会議の中で進捗
状況を共有させていただいて、その中でまた検証してということを繰り返していくこ
とになります。そのときに、こんな取組ができないかとか、そういった協議ができれば
よいのかなと思っています。以上です。

(金澤市長) ありがとうございます。私も市長就任前は議員をやっていたので、
議会でもいろいろなお話や提案をさせていただいていましたが、細かく教員さんが現
場で抱えていらっしゃる業務を見ていくと、例えばICT化・電子化することで、紙

で何十枚と管理していたのがこれ一つで済むとか、あるいは間違いも少なくなるとか、管理のしやすさがあるとか、そういったものを一つ一つ紐解きながら、どうやったら業務軽減していけるのか。それが結局、時間外をなくして軽減していく、少なくしていくことへつながると思います。

いろいろとこれまでの教育委員会の中でもご意見があったのは把握しておりましたが、改めて何かそういう視点も今教育長からありましたように、現場の先生たちからもどんどんあげていただきながら、この働き方改革を進めていくと、時間外を減らすためにどういうことをしたらいいのか。その中でもやらなきゃいけないものはやっていただかなきゃいけないのですが、支援員を置くことで何か軽減できないかとか、いくつかの解決策があるのではないかと思いますので、その辺やはり教育委員会さんが牽引をしていく。その一方で、各学校の先生たちもマネジメントの中でそういったものを洗い出して改革をしていくということが大事なのかなと思いますので、引き続き、来年度からのこの計画に基づいて、取り組んでいただきたいなと思います。

その他、委員の皆様、事務局の皆様から何かございますか。

(一同「なし」の声)

3 閉会の宣言 …… 14時05分